

< 研究成果の紹介 >

傾斜地、法面植栽に適したグラウンドカバー - プランツ

花植木センター

1. 成果の内容

中山間地域におけるほ場、基盤整備によって新しく生じた農道及び畦畔等の法面の除草管理に手間のかかることが問題となり、有効な管理法の確立が望まれている。そこで、抑草、景観形成が可能として注目されているグラウンドカバー - プランツを用い有望な種類を選定し、土地造成直後の法面で平成9年4月から19ヶ月間現地実証を行いました。

その結果、定植9ヶ月後の12月に被覆率が80%以上に達した種類はコグマザサ、フッキソウ、ヘデラ・カナリエンシスで植栽密度20株/m²以上、ピンカ・マジオール及びリュウノヒゲで植栽密度30株/m²でした。また、アークセカは定植4ヶ月後の7月には植栽密度10株/m²以上で100%の被覆率に達しました。

種類別の生育特性はそれぞれ異なり、冬枯れによる被覆率の低下が少なく回復が早い冬期安定漸増型としてコグマザサ、フッキソウ、リュウノヒゲ、ヘデラ・カナリエンシス、落葉等により冬枯れ時の被覆率低下が大きく翌春の回復も遅い冬期低下緩慢回復型としてピンカ・マジオール、更に降霜によって葉枯れがきつく現れるが翌春の回復が早い冬期低下急速回復型としてアークセカに分類できました。

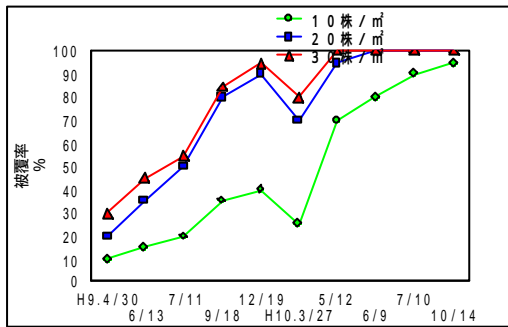
2. 技術の適用効果と適用範囲

今回実証しました草種は法面の植栽に適しますが、被覆状態等の特性を活かした適材適所の植栽について選定することがよいと思われます。

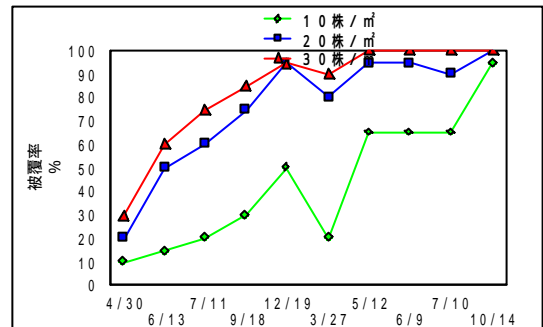
3. 普及・利用上の留意点

選定した種類でも雑草との競合には勝てず、被覆率が高まるまでは薬剤等の除草が必要で

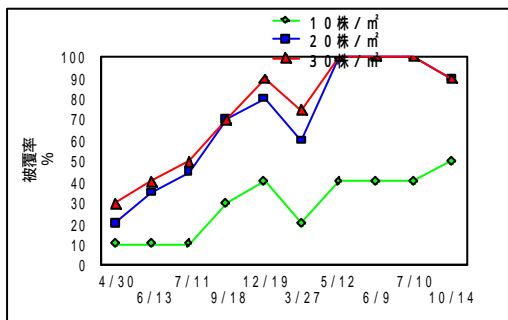
す。
(栽培担当 鎌田正行)



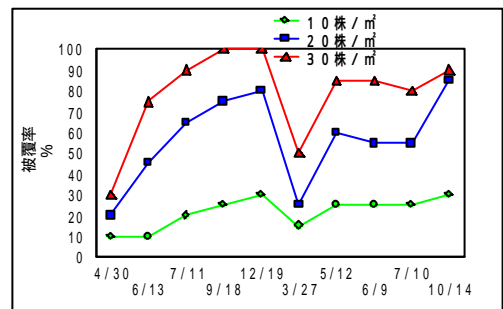
コグマザサ



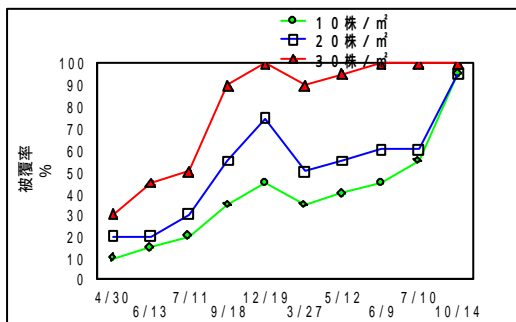
ヘデラ・カナリエンシス



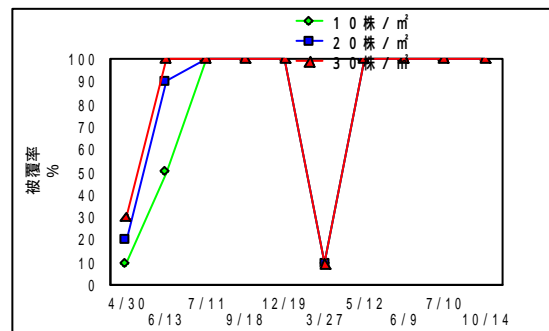
フッキソウ



ピンカ・マジオール



リュウノヒゲ



アークセカ